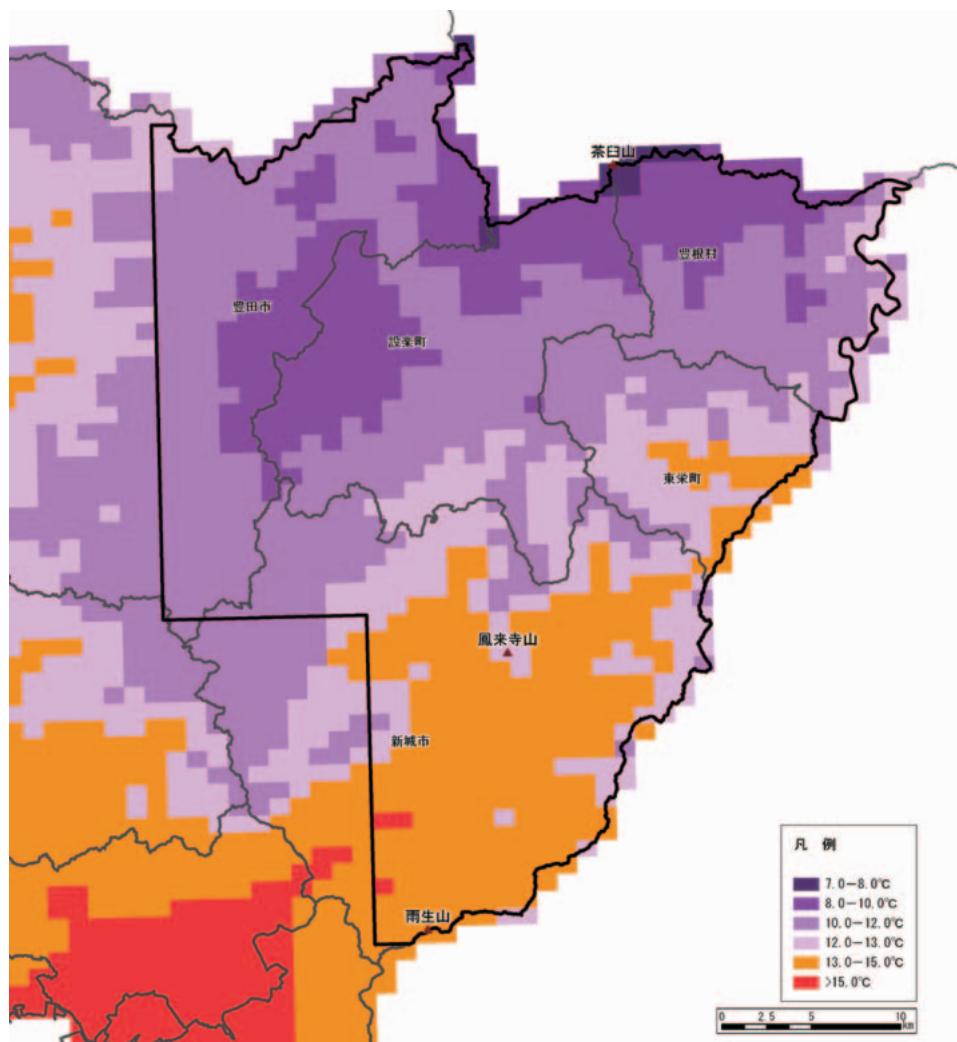


### (3) 気候

奥山は、太平洋側気候区に入るが地域により気候が異なっている。豊川水系の地域と天竜川水系である東栄町の南東部は、河川に沿って南風が流入するため比較的温暖な気候となっている。一方、河川から離れた段戸山、茶臼山といった高標高地域では冷涼な気候となっている（図2－6）。

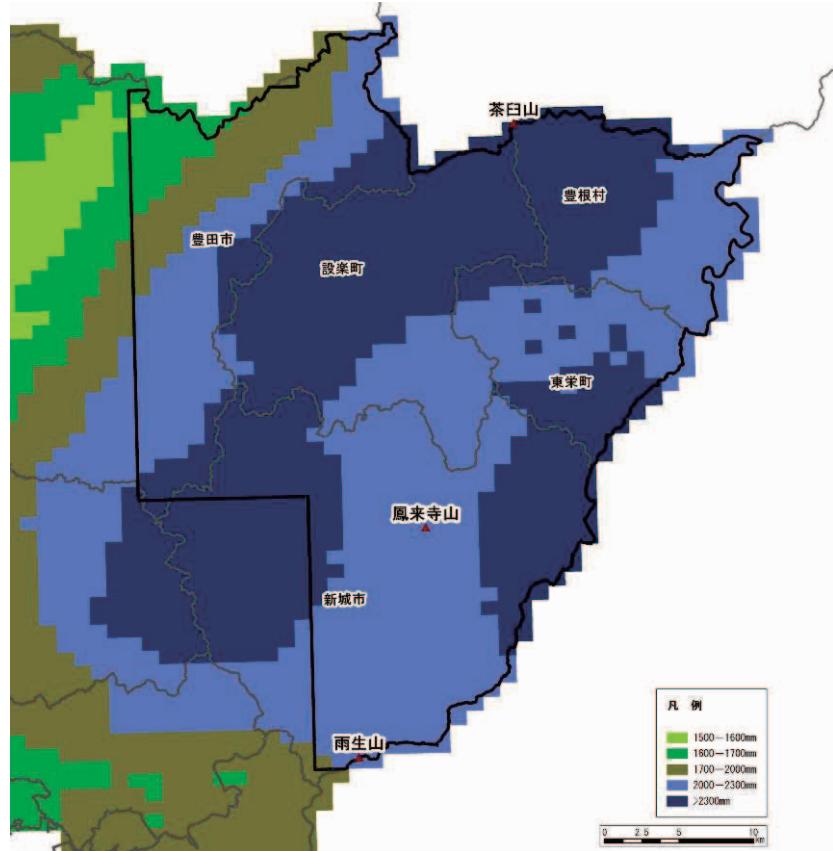
年間降水量は、ほとんどの地域が2,000mm以上で、県内では降水量が多い地域となっており、段戸山、茶臼山など2,300mmを越える場所も見られる（図2－7）。

積雪量は、比較的温暖な豊川水系等では少ないが、段戸山、茶臼山などでは最大積雪量が120cm以上となっている（図2－8）。



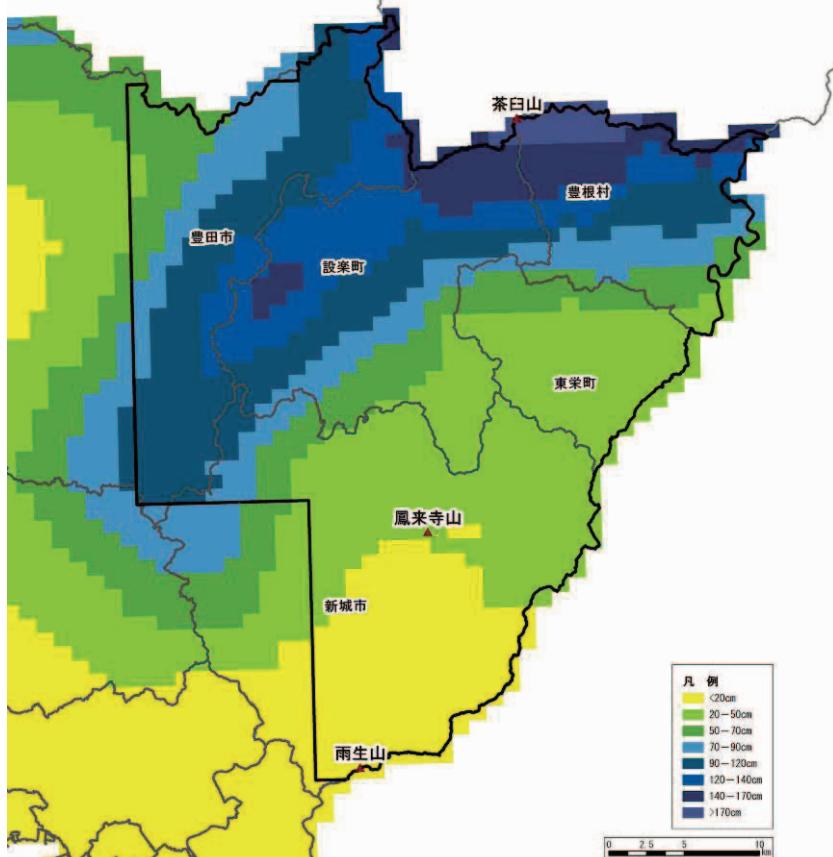
（出典）メッシュ気候値2000（気象庁、2002）より作成

図2－6 年平均気温



(出典) メッシュ気候値 2000(気象庁、2002) より作成

図 2－7 年間降水量



(出典) メッシュ気候値 2000(気象庁、2002) より作成

図 2－8 最大積雪量

#### (4) 植物

植生は、78%がスギ、ヒノキなどの人工林（植林地）となっており、それ以外の自然植生や二次林などの代償植生が22%占めている（図2-9）。自然植生については、面ノ木峠、茶臼山、段戸山裏谷、八嶽山など標高900m以上の地域にはブナなどからなるブナクラス域自然植生やウラジロモミなどからなる冷温帶性針葉樹林が小面積に点在している。明神山、鳳来寺山などの標高500m～900mまでの地域にはモミ、ツガなどからなる暖温帶性針葉樹林が、標高500m以下にはコジイやアラカシなど常緑広葉樹からなるヤブツバキクラス域自然植生がそれぞれ小面積に点在している。代償植生については、ブナクラス域にはミズナラなどからなるブナクラス域代償植生が、ヤブツバキクラス域にはシイやカシなどからなるシイ・カシ二次林やコナラなどからなるヤブツバキクラス域代償植生が広く分布している。

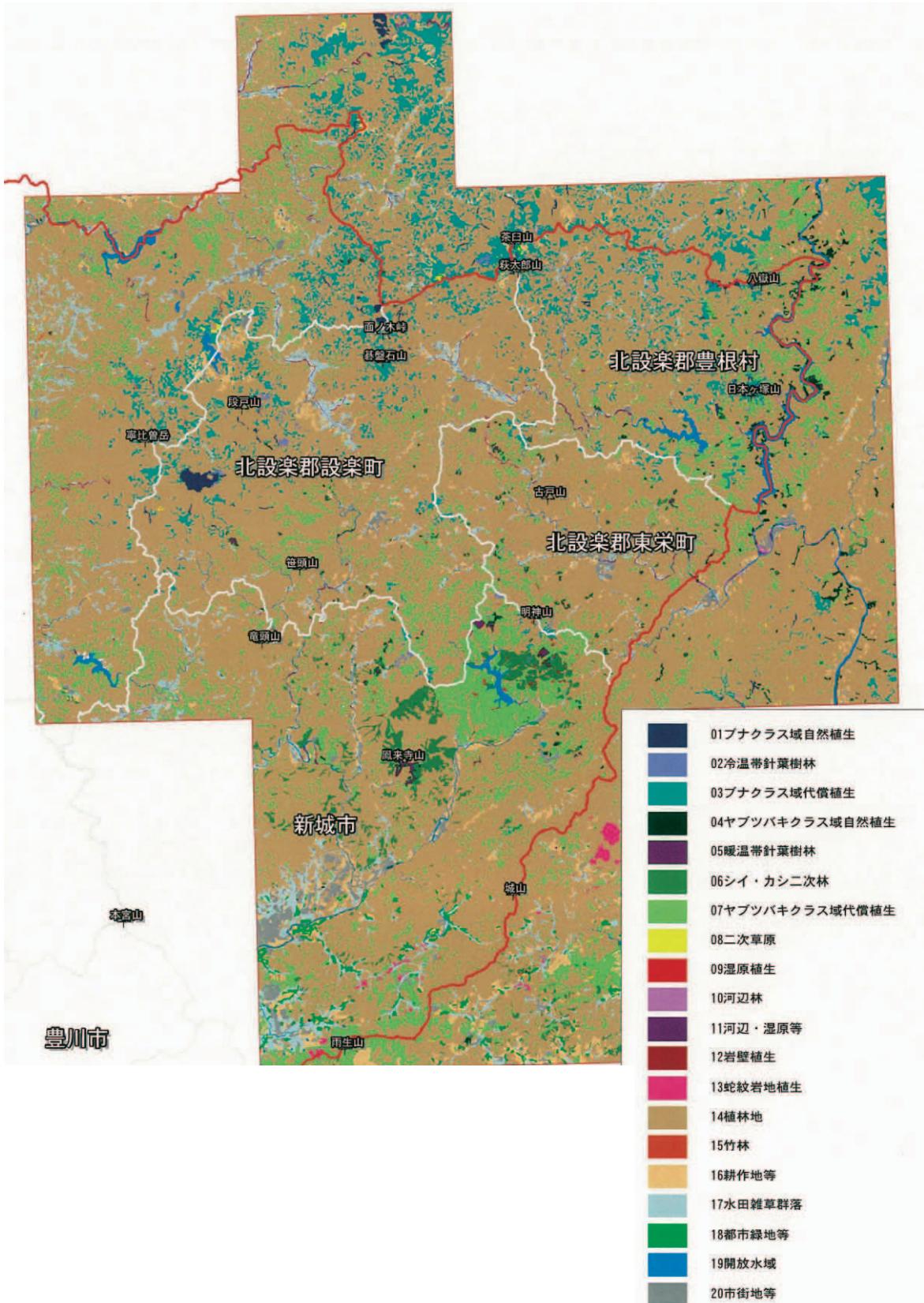
特筆すべき植生として、新城市的雨生山周辺に見られる蛇紋岩地植生や鳳来寺山、明神山周辺の岩壁植生があげられる。蛇紋岩地植生は、蛇紋岩、斑れい岩などの塩基性岩からなる特殊な地質によるもので、特異な化学組成に耐えることのできる植物や根の浅いツツジ科植物、アカマツなどの乾燥に耐えることのできる植物などからなる貧弱な植生となり、森林が成立せず草原状になっている場所では、ウンヌケ、シマジタムラソウといった希少な植物の生育確認記録が多数ある。岩壁植生は、日当たりの良い岩場にホソバシャクナゲ、イワヒバなど、渓谷沿いの水分条件の良い場所ではウラジロギボウシなどの生育確認記録があり、独特な植生が見られる。また、面積が小さいため植生図には表されていないが、東栄町の風穴周辺には、標高が低い場所にもかかわらず、イチリンソウ、ヒメニラといった冷温帶性植物が生育する風穴植物群落が見られる。

奥山の植物相は、「レッドデータブックあいち 2009」に記載されている種が維管束植物304種、蘚苔類45種と多い。このことは、地形・地質・土壤の項で述べたように多様な環境が存在しているだけでなく、気候の項で述べたように温暖な地域と冷涼な地域の両方が存在しているため、植生帯として、暖温帶と冷温帶の両方が含まれ、北設楽地域など標高が高い地域では冷温帶性植物が、天竜川や豊川沿いの低標高の地域には暖温帶性植物が生育していることによると考えられる。具体的には、コバノリュウキンカ（写真2-1）、ウダイカンバ



といった分布の南限種、イワシャジンなどの分布の西限種、キンキマメザクラなどの分布の東限種、キイトラッキョウなどの分布の北限種の生育確認記録がある。また、ミカワショウマ、ビロードノリウツギ、ウラジロギボウシといったこの地域に固有な植物など、多様な植物の生育記録がある。

写真2-1 コバノリュウキンカ



(出典) 環境省第6回、第7回自然環境保全基礎調査より作成

図2-9 植生図